

令和4年度第2回 知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】 令和4年7月12日（火）

午後7時～午後8時15分

【会場】 浜松市地域情報センター ホール

1 出席者

発言者：浜松市において様々な分野で活躍中の方
4名（男性3名、女性1名）

傍聴者：85人

オンライン視聴者：19人

2 発言意見

番号	分野	項目	頁
発言者 1	地域振興、 観光	中山間地域の新たな時代のまちづくり	2
2	ものづくり	ものづくりの現場の現状と支援制度	3
3	医療、防災	災害医療現場から見た課題	7
4	多文化共生、 SDGs	多文化共生社会の実現に向けての取組	10
傍聴者 1	—	リニア中央新幹線の実現について	14
2	—	棚田保全活動への支援	16
3	—	小中高生の自転車マナー	17
視聴者 1	—	浜松市の都市計画	18

【川勝知事】川勝平太でございます。

今日はこの広聴会、まさにこの夕食の時間にすることになりまして、誠に申し訳ありません。

実はいま移動知事室の途中でございまして、今朝も早くから浜松に入っております、この浜松の最高の企業の一つでございますマテリアルハンドリングシステムを作るすごい会社があります。株式会社日本設計工業というそこに参りまして、それからまた中村建設株式会社という有名な建設会社がありますが、そこは創業 65 周年に本社新築ビルを作られたんですけど、ゼロエネルギービルという省エネビルにして、新しい免震性能を強化しました。すごいビルを作られてそれも見せていただいて、その後、社会福祉法人ほなみ会特別養護老人ホーム南風というところなんですけれども、これが地域の人と地域の子も達やボランティアの方と一緒にやっている素晴らしい福祉施設。お年寄りさんがいらっしゃいますよね、そこに参りまして、それからまた建設業から農業に転身されて、14 年前にはわずか 30 アールで百万円ぐらいしか作れなかったのが今はですね、14 年後にはもう四億円のブロッコリーを作られて、しかも農業経営士にも認定されているという株式会社アイファームというところもありまして、そして今日はこちらに参ったということでございます。

今日は浜松市の方から素晴らしい 4 人の方々をご紹介いただきました。

今日はこの 4 人の方々のお話を承るという機会、広聴会なんですね。お聞きしたことはしっかりとお答えする、決して聞き流しはしないということで、お聞きしてこの場で答えられるものは答えますけれども、ご質問があった場合はですね、しかし答えられないものは持ち帰りまして必ずご質問された方、また要請された方にお答えするという事でこれまで 75 回やってまいりました。

今日もそういうスタンスでやりたいと思いますので、存分に皆さんもお話、浜松は三区になることが決まりまして、「どうする家康」っていうのもやってくるということで、非常にこの追い風が吹いているのではないかという感じがしております。

遠州灘の防潮堤も、市民のご協力によって見事な一条堤というのが姿を現しております。それから阿蔵山、あそこもですね、アクラヒルズという何か素晴らしいこの新しい開発ができそうな感じがございまして、天竜も越えてるかなという感じがございまして、私はここが大変大好きで、今日ここにこの時間にはありますけれども、来ていることを大変光榮に思っているところでございます。

1 時間あまりの短い時間ではありますけれども、どうぞよろしく願い申し上げます。

【発言者 1】私、浜松市の天竜区の方からまいりました発言者 1 と申します。

1990 年浜松市の出身でして、市内の高校から東京の大学に進学いたしまして、東京 R 不動産という不動産会社に参加いたしまして、2015 年に浜松市に U ターンして現在飲食並びに旅行業、旅館業などを通じて天竜の方でまちづくりをさせていただいております。どうぞよろしく願いします。

具体的に申し上げますと、具体的には地域のコミュニティプレイスでございまして

KISSA&DINING「山ノ舎（いえ）」という飲食店ですとか、ローカル鉄道ですね、駅舎をリノベーションした一日一組限定の宿、駅舎ホテル INN MY LIFE の経営ですとか、浜松市のインキュベーション施設でございますトライアルハウスの管理運営などを行いつつ、シャッター通りと化しておりました地元二俣地域の商店街のエリアリノベーションというふうなものを進めておまして、昨年よりおかげさまで出店ラッシュが続いてですね、週末も人通りが本当にまばらだった二俣商店街というところが、今では多くの方々が週末になると訪れるエリアになっております。

また最近では森ビルさんと共に市内外のものづくり企業さんを巻き込んで、天竜地域において Society5.0 の暮らしを実現させるためのワーキンググループでございます「天竜二俣塾」を設立、今年はですね、組織を提供した事業に取り組んでおります。

以上が現在の状況なんですけれども、ありがたいことに天竜二俣地域ですね、開業を希望する事業者さんに対して紹介できる物件が非常に少なくなっております。彼らのその需要を抱え込める施設といたしましてエリアの中心でございます遊休施設、旧二俣高校の活用ができればさらなるエリアの活性化が見込めるのではないかというふうに強く考えております。

更に私、私生活におきましては天竜区の限界集落の実態と課題というふうなものを体当たりで体験したいというところですね、中山間地域の熊地域というところに家族で移住いたしました、里山と言われる、日本古来のオフグリッドでサステナブルな循環システムにデジタルテクノロジーのレイヤーを重ねた Society5.0 の実現に向けて活動しております。

そしてつい先日なんですけれども、地域の人々と共に地域課題、Society5.0 の実現に欠かせない技術知見を持った外部のプレーヤーを結びつけるための組織 NPO 法人「耕」を設立いたしました。手始めにですね、地域にある市の遊休施設を外部のプレーヤーの拠点となる滞在交流施設へとリノベーションすることを予定しております。

山間地域が面積の大半を占める静岡県において、次の時代の振興のロールモデルとなるような活動を行っていきたく思いますので、ぜひとも県の皆さまにも何らかの形でこの事業に対してコミットメントをいただけたら幸いです。

私からは以上でございます。どうもありがとうございました。

【発言者2】 みなさんこんばんは。ただいまご紹介いただきました三賀株式会社専務取締役をしております発言者2と申します。

今日はちょっと急遽参加させていただくということで、パワーポイントの資料がなくすみません。話だけになってしまいますので大変申し訳ないです。よろしく申し上げます。

弊社は機械工具の商社をしておまして、多分殆どの皆さんがピンと来てないと思うんですけれども、私達の仕事内容というのは、浜松には数多くの製造業があるのですが、その工場にお邪魔しまして本当に一本10円のネジから一台何千万もするような工作機械というものを、お客様が必要としているものをご注文いただいてそれをメーカーさん

から取り寄せをしてお届けするというのが私たちの仕事になります。

昨年創業50周年で、実は遠鉄バスにお願いしてラッピングバスを今走らせているんですけども、もしかしたら見た方もいらっしゃるんじゃないかなと思います。

ということで、私達は毎日製造の現場にお伺いして、いろんなお客様とお話をしていくんですけども、今日はですね、今の浜松の製造業の状況、特に中小企業の実情についてちょっとお話をさせていただこうと思います。

今はですね、ニュースや新聞などで報道されていると思うんですけども、自動車を注文すると普段なら多分一、二ヶ月で納車されると思うんですが、今ではもう人気ある車っていうのはもう半年、中には一年や四年なんていう車もあるようなんですけども、こんな状況でもですね、結構実は車は売れています。

浜松はですね、特にこういった自動車メーカーの部品を製造する下請けさんの中小企業が数多くある訳なんですけど、車がたくさん売れているということは当然部品も沢山使いますので儲かっていいんじゃないかなと思うんですけども、実はですね、今現状そんな状況とは程遠い現状にあります。

その原因はと言いますと、コロナの影響もあるんですけども、ウクライナ侵攻による物価の高騰であったり、また上海のロックダウンの影響もあって半導体不足による特に電子部品関係の商品がですね、非常に品薄の状態となっていて、製造業にとっては本当に大手さん、中小企業にかかわらず大打撃の状態にあります。先日もお客様から機械が壊れたということでお話いただいて、こんなちっちゃな電子部品、金額にして二、三千円のものなんですけれども、それをご注文いただいて手配をしたんですけども納期が一年かかるということをおかれまして、本当に冗談か本気なのか分からないような話だったんですけども、その時はですね、まあ他の部品で何とかして、お客さんはなんとか良かったんですけども、今ほとんどの電子部品がこういったような状況になっています。

また追い打ちを掛けるようにですね、物価高騰による値上げラッシュが続いています。まずいろんな製品を作るために鉄だったりプラスチックだったり、いろんな材料を使うんですけども、その材料が月単位で値段が上がっています。中には以前の価格の二倍から三倍になったようなものもありまして、今後もまだまだこの状況が続くような状況です。

最近の私たちの仕事はですね、注文をいただいた品物をお客様にお届けするというのはもちろんなんですけども、お客さんにですね、今度これが値段上がりしますとか、この商品が入らないですとかっていう、そういったことを伝えることの方が最近ではちょっと多くなってるのかなと思います。

またそういった材料や品物の価格が値上がりをするのでですね、まあ当然それを使用して製品を作る訳ですから、その製品の価格も本来であれば値上げをしなければいけません。

しかし殆どの中小企業の製造業のお客さんは、製品を値上げしてしまうと、他の同業者に注文が流れてしまうといった恐怖感から製品の価格に値上げを転嫁できないとい

う状況が実情です。

日本の中小企業の価格決定っていうのは、いかに製品を品質を落とさず安く作るか、要はできるだけ製造原価を下げて安く売るという感じなんですけれども、欧米の方はまた違って、良い商品をより高く、製品にできるだけ付加価値をつけて高く価格を下げずに売るにはどうしたらいいかという考え方になっているそうです。日本もよくニュースでも、今回の選挙でも訴えてる政党もありましたけれども、日本の賃金が上がらない原因っていうのは価格を下げないと買ってもらえない、そのために売る値段を下げる、そうすると会社の利益がもちろん減ります。

それが賃金や採用の抑制につながるという、まあある意味そういった仕組み化されてしまっている。特に中小企業は構造的に賃金が上がらないという状況になっているのではないかと思います。

まだいろいろ伝えたいことがあるんですけども、ちょっと時間の関係もありますので、今浜松の中小の製造業の皆さんはもう本当にこのような状況の中でより良い製品を作ろうと本当に頑張っておられます。

しかしながらですね、効率よく仕事ができるような設備投資であったり、これから取り組んでいかなければいけないカーボンニュートラルとかですね、それらに取り組んでいくにはもちろん手間もお金もかかります。それに対していろんな補助金や助成金があるんですけども、中小企業はそういったものがあると分かっているにもかかわらずなかなか利用できない、どう活用したらいいのかわからないというような現状です。

こちらからもいろんなことはご案内をするんですけども、ぜひ県としてもですね、そういった制度の案内や導入や利用にあたってのサポートをもっと気軽に相談できるような窓口を作っていただいたりとか、そういった仕組み作りをぜひしていただきたいなと思っております。

私たちもですね、このものづくりのまち浜松で製造業の方々と関わり、日本のものづくりを支えているという自負も誇りもあります。もちろん浜松の製造業の皆さんも同じです。最近では先ほどお伝えしたようなあまり良いニュースがないんですけども、こういった自分たちに関わる方全てが明るく楽しく元気よく幸せで笑顔になれるような仕事をしていきたいと日々考えて、これからも日本の製造業を支えていきたいと思っています。

すいません、長々ととりとめのない話になってしまいましたが、私の話は以上になります。本当にありがとうございました。

【川勝知事】 いや発言者1さん面白いですね。

東京に行って、こっちに帰ってこられて喫茶店ですか。まあ喫茶店最近流行らないんじゃないかと思ったら、しかしあの写真を見たら入りたくなりますね。

それからあの天竜浜名湖線の駅ですか。これは素晴らしい。

天竜浜名湖線はですね、一回天竜川川下りで悲惨な事故が起こりまして潰そうという動きがあったんですよ。これをですね、地元の人々の強い声もございまして私共も是非こ

れを存続させたいということで、今存続してそれが発言者1さんに利用されていると。これは非常にロマンチックなホテルじゃないかというふうに思ったんですね。

それから熊というところに移住されてる。最近言われているデジタル田園都市を自ら地で実践している、それが発言者1さんだという感じがいたします。

そして、今は東京でも巣ごもりで外に出られない、コンクリートの中で生活している方達がですね、本当に懂れているのが今発言者1さんがやってるようなことじゃないかとすら思いましたね。

ただその場所がなくなって、二俣高等学校、今これは天竜林業高等学校と合併せざるを得なくなって、天竜林業高等学校の方が敷地が大きかったのでそちらに統合されたんですね。結果的には二俣高等学校のほうは空いてる訳ですね。高等学校ですから、少年少女たちが通いやすい場所にあるわけですね。あそこは素晴らしいところですよ。

二俣高校のほうが駅に近いですからね、あそこの校舎がどうしたら利用できるかっていうのはですね、これは本当にいい問題提起で、どういうふうにすればいいか。運動場もありますから、実は私は、あの阿蔵山の土で防潮堤を作って、そして阿蔵山を開発してそこにですね、天竜林業高等学校とも二俣高等学校の二つの卒業生も満足するようなこの丘の上に立つ阿蔵山って言ってヒルですよ。丘です。その丘の上に立つ高等学校を作りたいなっていう夢があったんですよ。

それはともかくとして今そこはですね、もうどんどんどん企業が進出してこられてその阿蔵山の、何しろ17キロの防潮堤を作った土ですからね、もう本当に貴重な山の土な訳です。でそこがもう引く手あまたっていうか物凄い工場進出の的になって発展していくことは間違いないので、そこに賑わいの空間であるとか住まいの空間をどう作っていくかとかいうことで、発言者1さんのような住まい方ができる場所だということ、そういうような情報の発信の拠点にもなってもいいなと思います。

これは県と市とそれから地元の方とそれからあなたのような、そういう色々やってる方達と一緒に巻き込んでですね、高等学校の跡地利用については、これ夢のある話なのでぜひ実現したいなど。私自身も関心があります。

実はあそこに阿蔵神社って名前じゃないですけど神社があるんですよ。山を潰すわけですから自然破壊でしょ。ですからそこにこの土砂を使わせてくださいっていうことをお願いしたんですよ。その祠があって宮司はいないんですよ。

ちょっと階段ぼんぼんぼんと上がっていくとあの祠があってそしてものすごく大きな木があるわけです。これが神木かということで、ご神木にこの山の土を使って防潮堤作りたいたいですけれどもよろしいでしょうか、ああそれは人助けのためだ、よろしいという声が聞こえてまいりまして、でその代わりにここを素晴らしい住宅街にしてビバリーヒルズを抜くアクラヒルズを作りますからって言ったら、それはもうほんとに殊勝なことだと言われたんですが、これは私の独り言かもしれませんが、そこがですね、今発言者1さんがされるような形が出てきたりですね、夢を語れる場所になってるっていうのはめちゃくちゃ嬉しいですよ。

しかもあそこは天竜浜名湖鉄道の本社があるところですから、極めてぼろっちなんで

すけども素晴らしい。今社長松井社長なんですよ。県の職員です。彼は県の職員になることが間違っていましたね。その前のあの社長はなんて言ったかな、長谷川君て言うんです。今菊川の市長になってるけどあそこは出世する駅です。あなたはそのうちの一人じゃないかと思った次第でございます。

ちょっと長くなってすみませんでした。

発言者2さんはですね、大事な話をされまして、今中小企業は非常に困ってる訳ですね。でそのために色々な資金繰りの支援であるとか、それから雇用の維持であるとか、それから新しい、いわば業種転換したいというためのそういうお金の支援であるとかです、ものすごい盛りだくさんな支援のメニューがあるんです。

しかし、今発言者2さんがおっしゃったように、それをなかなか見られないということがあるのでおそらく発言者2さんのような方がこの仲介に、つまりメーカーとお客様の間に立つ仕事をされてるようなので、そういう仕事の方が相手に入ってくるのがいいということもございまして、私共はずいぶんおかげで産業創造プラットフォームって言ったかな、そういうのはネット上に作りました。でこれは資金援助についてのメニューも得られますし、自分がこういう目的でお金が欲しいと、あるいはこういう目的でこういう製品が欲しいということについての情報をその産業創造プラットフォームの中に織り込んで去年の12月にオープンしたものであります。ですから後でこれの中身を皆さんに正確にお知らせして、また市の皆様方にもお知らせして、中小企業の皆様方がですね、これを利用して様々なこれからの中小企業が生きていくためにコミュニケーションができる、そういうプラットフォームですからこれを活用していただければというふうに思う次第です。

この間に入る人がやっぱり必要なんですね。ですからたまたまメーカーとお客様の間に入って仕事をされてこられたと、そういう方が一番製品を作ってる方達の悩みと言いますか、値段が上がってしかも原価が上がって製品の値段を上げられないという苦しみの中でいらっしゃる方たちがどうしたらいいかということのためのプラットフォームでありますから、使い勝手などについてもそれこそ検討が必要だと思いますので、是非発言者2さんが中心になってお使いいただければというふうに思います。以上であります。

【発言者3】 浜松医大救急 発言者3といいます。私は、普段は大学の救急外来で働く医者として、本当にコロナの患者さんが増えるか減ったかっていうのを毎日身に染みて感じている立場であります。

それと同時に私はDMA Tで、今日もこれが仕事着なんですけれども、我々は支援に行った時に自分が何者かがすぐ分かるようにあえて目立つものを着てます。趣味で目立ちたくてこういうのを着てるわけではありません。

私からは、今回この新型コロナウイルス感染症って皆さん感染症として毎日ニュースで何人感染者が出たと見られていると思うんですけども、我々にとっては災害医療そのものです

ね、そういったお話をちょっとだけさせていただきたいと思います。

私はDMA Tという立場とあとここにF I C Tについて、県の新型コロナ対策会議とかその調整本部で、それに専門家の先生方の専門家会議でもそれのもと下の組織ですね、簡単に言うと救急とか感染症の実動部隊です。そのメンバーで作ったふじのくに感染症専門医協働チームっていうのがあってF I C Tって言ったんですが、そのメンバーであります。

このF I C Tが2021年度と昨年度どれぐらいの活動どんな活動をしたかっていうのを統計、県の新型コロナ対策企画課からもらったデータを示しています。色々やりました。保健所の支援、保健所も本当に大変でした。保健所支援486、うち県庁支援57で病院の感染対策支援、あとは研修会の開催。軽症者のホテルですね、療養所がありますのでそちらへの支援。

あとは今日特にお話ししたいのはクラスター施設支援というお話で、皆さんクラスターで聞くとどのような感じを持たれますか。なんとなく、うわまたかって感じられてるんじゃないかなと思うんですけども、その内情がどんなふうになってたかっていうことをちょっとお話しします。

クラスターが起これると施設の職員さんやっぱり感染していきます。あるいは病院の職員さんで利用者さん、患者さん、感染者が増えていきます。で具合の悪い人が増えていきます。職員がどんどんどんどん減っていく中で、治療が必要な患者さんだったり介護が必要な方、利用者さんだったりどんどんどんどん増えてくる訳なので、要は普通に比べたら需要と供給のバランスが大きく崩れた状況が施設とか病院のクラスターです。

これっていうのは例えば地震が来て患者さんが急増した病院と一緒になんです。こういった需要と供給が壊れたところ、これ実際災害なんですね。施設の中で、あるいは病院の中でこういった災害が起これると、とにかく混乱します。で、混乱した上にやっぱり皆さん新型コロナの感染症が怖いって思われたことはきっとあると思うんですけども、恐怖あとはもう人間怖いと思ったら誹謗中傷っていう気持ちが出てしまうのはいくらやめてって言ってもこれ人間誰しも出てくるもんだと思います。

で、これが悪循環し始めるんですね。混乱、恐怖、誹謗中傷、この中で一生懸命利用者さんだったり入院患者さんに対応するスタッフはどんどんどんどん疲弊してきます。

で、まさにこの災害が発生した中で我々なぜDMA Tが出て行くかって言うと、一番上のとこなんですね、指揮系統。やっぱり災害が起こった時に、部分部分にたくさん問題が生じてきます。個々の問題ばかり見ると全体像が見えないですね。

災害医療の原則って言ってこれは我々DMA Tだったら誰でも知ってる言葉で、災害に関与してる県の行政の人たちもみんな知ってます。C S C A T T T、これは略語でこんな順番でやるんですけど、英語と日本語だと分かりづらいので隣に絵がありますよね。鳥さんとアリさんと魚が泳いでる絵。（編集注：C=Command and Control、S=Safety、C=Communication、A=Assessment、T=Triage、T=Treatment、T=Transport）

鳥の目、虫の目、魚の目。で何かというところのアリの目、虫の目っていうのは、例えば今角砂糖を見つけてアリさん喜んでます。でも隣の島に行くと実は角砂糖が100個あ

ってアリさん一匹しかいない、ラッキーな島かもしれない。でも別の島に行くと実はアリさんが100匹いて角砂糖が1個しかないかもしれないですね。アリさんは目の前のことに一生懸命でそんなこと全然気づく余地がないんです。

誰がこれ全体像って見えますかって、やっぱり鳥さんなんですね。鳥の目。

なのでやっぱり災害起こった時にはこの鳥のように、鳥の目のように俯瞰的に物事を見て、魚が波の流れを読む、読んで泳いでくように流れを読み、その上で、虫の目、個々の患者さんだったり利用者さんだったり、そういうところに対応していかなきゃいけないっていうのがこのC S C A T T Tということになります。

我々DMA Tは何をしたかって言うと、クラスターが起こった施設にお手伝いに行きました。で混乱してる部分をDMA Tはこの災害に準じて指揮命令系統、要するに組織だった活動ができるよう施設の支援をしますし、感染症を普段から専門にしているスタッフは、実際不慣れな感染症の対応を余儀なくされてる施設病院のスタッフに感染に関する知識技術をお手伝いしていくってことなんですね。

静岡県西部でお手伝いに入らせていただいた8施設の結果だけ簡単に示させていただきますと、8施設で20%ぐらいの感染者が出た。平均年齢は80歳超なんですけど、この当時ですね、今コロナって株ごとに死亡率が変わっていますから、この当時、2020年7月から約1年、この時の大体80歳以上のコロナの死亡率12.3%が全国平均です。これ厚労省データです。

それに対して我々が支援に入ったこの施設に関しては3.9%と極めて低い数字でした。これはただ申し上げておきたいのは我々が行ったからよくなったわけではないと思います。感染症のプロも一緒に入ってますし、なによりも本当にあの悪循環の中で一生懸命患者さんとか利用者さんのために働いたその施設とか病院とかの頑張りの成果で、僕らはそれをちょっとお手伝いしただけだと思っています。

で、こんなコロナの2年ちょっと、去年の災害もやはりコロナの災害でも、日常的にそのC S C A T T T、鳥の目虫の目魚の目、そういったことをずっと僕ら意識して活動してきて、やっぱり自然災害が起こった時にも同じ発想で動きます。

静岡県は南海トラフ地震が30年以内に70%と言われて、なかなか起こらないのは本当にいいことなんですけれども、いつかそんな時が来た時にこのコロナでの経験っていうのもきっと自然災害大きな災害にも生きてくんじゃないかなっていうふうに感じています。

県の仕事のF I C TあるいはDMA Tは県と病院の契約のもとで動いているので、我々は県の指示で動いている集団です。私がこの2年半ほど活動してきて、ここであんまり言うといつも一緒に仕事をしてる県の人たちに迷惑かからないかなとか少し心配ではあるんですけど、正直な感想を述べさせていただきますと、やっぱりなかなか指揮を取ることで難しいです。

実際にじゃあコロナが大流行した時にコロナの患者さんだけ見てると、一般救急の交通事故の方とか心筋梗塞でもものすごく具合悪い人たちがなかなか入院できないような、病院に行けないような状況になってしまいます。あるいは救急だけじゃなくて、コロナ

だけじゃなくて癌の患者さんだったり色んな病気の方で、本当に手術があとちょっと早く、そういう方が後回しにされたり実際に起こってしまいました。

そういったところを本当に一点だけ見るんじゃなくて、俯瞰的に見る医療スタッフだけではなくて、やっぱり行政のスタッフにもそういった方がぜひいらっちゃって、そういう方と我々が連携していけたら一番いい対応ができるんじゃないかなと思ってます。

あとは災害時の情報管理のDX、デジタルトランスフォーメーション。保健所だったり県庁だったりいろんなところに支援に入らせていただいたんですけども、正直やっぱり紙媒体が非常に多いですね。で、データを集めてそれを何かに生かそうと思っても、なかなかうまくいかない。本当に一生懸命働く現場スタッフとか、保健所でスタッフを毎日のように見てたんですけど、もうこれなんかかなんないのかなっていうのが私の正直な思いでした。

やっぱりこれ熱海の時もそうですし、これから起こる大災害でも、DXが進んでいかないとおそらく本当はそこに労力をつぎ込まなくていいところにどンドンどンドン労力が取られてしまって、もっと有効な手を打てるところで打てなくなってしまうんじゃないかなって考えてます。なのでここもちょっとお願いしたいポイントだと思ってます。

最後に、集めた情報に関しては医療のプロではありますけれども、集めた情報をどうやって分析してどう生かすのかというのは私は残念ながら知識・技術は持ち合わせておりませんでした。なのでそういったところも、情報を取り扱うプロの集団ですね、そういったところとも連携ができればもっともっと良い活動ができるかなというふうに感じております。

最後ですけども、まあ我々の活動中には、例えば病院にいない間は私の代わりに働くスタッフにいつもカバーされてますし、私の家族も私がいなくて、ずっと私の分をカバーしていた訳なので、我々の活動は同僚だったり先輩だったり家族だったり、いろんな人たちに支えられていますので、全ての皆さんに感謝をして、今回はこのデータを示して終わりたいと思います。

ありがとうございます。

【発言者4】 浜松市民の皆様こんばんは。ありがとうございます。発言者4と申します。本日はよろしく願いいたします。

本日はですね、22歳の大学生が話しているんだと。もう私が持っている特性など全て横に置いて、そういう22歳の女の子が話しているというふうに聞いていただければ幸いです。

早速なのですが「外国人の友人はいますか」という質問から参ります。

こちらの質問をする意図としては、浜松市は全国の中でも多文化共生の街です。そして2017年には世界的なプログラムであるインターカルチュラル・シティ・プログラムにも参加しておりまして、そこで世界的にも結構浜松は注目されています。その注目されているのも外国人、外国にルーツを持っているそういう移民されてきた方も、日本人の方もみんな調和して生きている。それぞれの多様性を活かしながら生きている社会

づくりができていると思われているから注目されております。

浜松市民の皆様どう思われますか。実際に外国人の友人はいらっしゃるでしょうか。そこをまた皆様で考えていただければ嬉しいです

次の質問に参ります。「日本人とは？外国人とは？」という質問です。

先ほど外国人の友人はいらっしゃいますかという質問をしたのですが、まず外国人という概念は何でしょうか。日本人という概念は何でしょうか、という所にいきたいのですが、例えば私の友人で父親が日本人、そして母親が例えばコロンビア人だったりアメリカ人だったり、そういう友人がいます。

そういう子達、ダブルのルーツを持っている子達は日本人に所属しますか、それとも外国人に所属しますか。それを多分考えてみた時にこの概念の二つだけで分けるっていう概念が少し難しくなるかと思えます。

はい、今のが私が普段行っている活動の模擬体験のようなものです。

私は普段学校内でこういうふうにご自己紹介、ライフヒストリーを学生にシェアをしてこういう外国にルーツを持っている学生がいるんだよというシェアを行っております。またこちらの写真は他の大学生と交流会をした時の写真です。

他にも先ほどの質問がありましたが、そういう概念をもっと考える質問をする交流会だったり、あとはこちらの写真は私の仲間なのですが、皆文芸大生でそれぞれ日系ブラジル人だったり、在日朝鮮人だったり、あとはフィリピンと日本のダブルルーツだったり、そういう仲間が私にはいます。

あとはですね、学校内の活動だけに関わらず三河屋というところで「みかわや p o d c a s t」をやっております、そこからは街角から地域の人をつなげる活動をしております。

先ほどからどんな活動をしているのかを紹介させていただきましたが、今度は私自身の紹介をさせていただきます。私の名は非常に長くて、通称は発言者4と呼んでもらっております。なので発言者4とお呼びください。そしてですね、こちらが私のライフヒストリーです。2000年に南米のコロンビアで生まれました。そして2006年、6歳の時に静岡県の富士市にやってきました。なのでもう2006年から皆様と同じく静岡県民です。そして2016年、県立の高校に行き、2019年に今の静岡文化芸術大学に入学をしました。ただいま休学をしております。インターンもしております。

ここからはお願いの部分に入りますけど私の方からは二つお願いをしたいと思います。

一つ目はですね、日本に生きる様々なルーツを持っている人たちの勉強ができる機会の創出です。これはどういったことかという、実際に今日本は移民の国になろうとしています。

しかしその教育はどう変わっているのか考えた時に、あまり変わっていないのが現実かもしれません。その部分を少し変えて、どうやってその隣にいる外国生まれの友人が日本にやってきたのか、その来歴を聞くことでその人とより近くなれたり、あとはヘイトとかそういうのが差別がなくなると思えますので、その小学生、中学生のこういう

学びをととても大切にしていきたいと思います。

二つ目がですね、外国にルーツを持つ子どもが自分の文化を学べる場所です。これは少し難しいかと思うのですが、例えば移民の子供たちが日本にやってきて、日本語の勉強をして日本の文化を学んで、どんどんそれをしていくと、自分の文化というものを失います。私自身もそうでした。しかしダブルルーツを持っている子供たちは、私の考え方なんです、二つの文化を学ぶ権利を持っていると思います。そこでぜひ学校で、こういうふうに自分のルーツを勉強できる、そして自分のルーツをポジティブに捉えられる子供たちが育つことをすごく願っております。

以上の二つが私からのお願いでした。

宮沢賢治さんが「世界全体が幸福にならないと個人の幸福がない」と言っております。是非社会の教育からの幸福を願っております。

以上です。ありがとうございます。

【川勝知事】浜松はですね、今発言者3さんがいらっしゃる浜松医科大学、そして今発言者4さんが所属されている文化芸術大学があるのは素晴らしい。これはもう浜松の誇りですね。また静岡県にあるという事を二人の話を聞きながら実感したところであります。

この発言者3さん、DMATとは、これは今よく使いますがDはディザスター、災害ですね。Aはアシスタントするチームとの意味であります。Mはメディカルで、災害医療を救援するチーム。

これは阪神大震災の後ですね、そこで怪我をしてる人とか心身に障害を負ってらっしゃるのでそのプロがそこに助けないといけないと、行ったってことが実感されてですね、資格を持つ人をDMATとして医者とか看護師とか業務提携する人は大体4人一組でチームを作る、これがDMATということで平成17、18年ぐらいにまだできて間なしということでございます。

災害が起こった、すぐに行ってということですがすぐに行くわけですが、しかし東日本大震災が起こりまして、長期的にそこに滞在せざるを得ないということで全く新しい事態でしたから、今発言者3さん、このコロナの中でですね、もう100回を超す回数で医療従事者としての経験になると。まさに我々が県民あるいは国民全体あるいは住民全体が感謝する医療従事者のひとりとして、文字通りこの最前線で活躍されているということがよくわかったわけです。

そして、たまたま昨年7月3日ですね、静岡県熱海で土石流、伊豆山で起こりまして、これはコロナの中で起こったわけですね。500数名の方が一旦避難された。その方たちが感染症になってはいけないと同時にですね、災害にあった方たちですから重傷者の人もいらしてどうするかということで、DMATがさっと出て行って、これは7月の下旬ぐらいまで入れ替わり立ち替わり行かれてやってこられてですね、こういう中で今このDMATと県が、我々防災先進県として行ってますけども、災害は全く突然襲ってきて、いろんな形で襲ってくるんですね。DMATは災害時に行っていただいて救急のこ

とをやっていただくということで済まなくなっていて、今感染症のこともやっていただかないといけないということになって、非常に複雑になっているわけですね。

最後に三つ言われました。この時代ではDXですね、デジタルの技術を持つことがすごく大事だが、この情報をしっかり分析して、評価する人が必要だということなんですね。

全くおっしゃる通りですね。DMAT抜きに救援はできません。すぐに派遣していただくことになります。国のフォーマットもあるんですけども、一方で県としては受援、国の先生方と連携してですね、消防や警察や地元の医療と連携しとかなないと、これをどういうふうなことをすると最適になるかということこれはですね、適切な解はありません。

そこで10月、大地震が起こった場合に医療活動をどうするかってということで訓練をすることにしまして、そこに発言者3さんも是非来ていただいてですね、これまでに得られた知見などをそこでご披露たまわって、そして今もそうですけれど、これが新しい災害になった時にどういうふうなことをすると、準備しておくかとか。先ほど三つのことを言われましたが、こうした三つの柱を中心にして、県の方としましても実は危機管理というのを最優先に置いています。

危機管理監っていう者がおり、危機管理部長もいるんですよ。危機管理監は当初はいわゆる防災の担当者だったけど、去年はですね、疫病から住民を守る、国民を守る防疫担当、言い換えると医療に通じている方が危機管理監になりました。しかし熱海の災害のように複合的に起こることがありますので両方とも必要なんですね。ですから組み合わせをしていかななくちゃいけないということでございます。そういう意味で今日の発言者3さんの問題提起はすごく重要であります。DMATの制服だけは今日覚えて帰ると。発言者3さんの言葉とともに覚えて帰ると。

それからですね、発言者4さん。

立派ですよ、何しろあの文芸大ですね、今は競争率高いわけです。特別枠はないわけですから、全部普通に入試を受けて入ってくるわけですから、それで外国人か日本人か。違うんですね、ご本人が言われました、静岡県民だと。そうなんですよ。静岡県には浜松や磐田に多いんですけども、外国人がたくさん暮らしています。今10万人くらいいらっしゃるんですね。国籍はどのくらいか知っていますか。126カ国です。

今、ウクライナの人がこちらに皆さんで来られています。だいたい20数名の方がこちらで今お住まいになっています。それ以前に30数名の方がいらっしゃいましたから、今50数名の方がいらっしゃるわけですね。ロシアの方もいらっしゃるんですよ。100名以上いらっしゃる。何かありますか。ないでしょ、ないんですよ。ですから宗教の違う人、今内戦でお互いに厳しい争いしてる人たちもいるんですけど、ここはですね、多文化共生、文字通りお互いに違いを楽しむにはどうしたらいいかっていうことは今でも共通の言葉が必要ですから、日本語ができるとふさわしいですけども、自分の文化を忘れてしまうとですね、多様性がなくなっていくますんでね、ですから日本人が外国に行って、自分の子供達になんとか日本の文化をしっかり覚えてほしいとか全く一緒に、発言者4さんもコロンビアの文化を自分はこちらの子達に伝えるということなのでそれ

を学ぶっていうことは重要だと、ますますこれから静岡県は特にですね、これを政策にしています。ついこないだまでは河森さん、今は横地さんって女性ですけども多文化共生の担当になって、超ベテランです。そういう人が中心になって、お互い住みやすいように、不幸せにならないようにですね、特に子供が大事にされるように色々とメニューを出してます。特に災害の時に困らないように19ヶ国語ぐらいですぐに対応できるようにするとか、できることはやってるんですけどまだまだ不十分で、今ヒントを与えてくださいましたね。外国人の方達が自分達の文化を知ることが大事なので、それを学ぶ機会を与えて欲しいと。

横山学長が目の前にいらっしゃいますけどもインドネシアの服を着ていらっしゃるでしょう。インドにも行って世界を放浪してイギリスで博士をとってですね、実は学問のルーツは遠州なんです。賀茂真淵って人がいたわけですね。インドネシアの暑いところでですね、賀茂真淵の文章に接して大論文を書いて京都大学の副学長になった人なんですよ。文字通り国際人なんですよ。ですからですね、そういう組織の中に「遠州学林」とかっていうものを作って、街の人も学者も学校の方も一緒に集える場所を作ろうとしているので、そこにこういうプログラムが入っていくとすつといけるんじゃないかというふうにも思います。

その建物ですよ、隣に総合庁舎あるじゃないですか。あれ浜松の鈴木康友市長さんが特別自治市になるからってことで議会で言われたそうですね。特別自治市になるということは静岡県庁出ていってことなんです。ですからその建物はいらんってことですよ、そこを文芸大にあげてその「遠州学林」の校舎にしてもいいかと一瞬思ったぐらいですけども、そういうふうに繋がる話を市長さんがおっしゃってるんですよ。ここは非常に独立心が強い、そして外国人が住みやすい、風通しの良いところですよ。だからここに住んでる人は皆浜松市民です。静岡県に住んでる人は静岡県民です。

今スコットランドでですね、イギリスから独立しようって言って、あれはスコティッシュナショナルパーティって言ってますけども、実はスコットランドに住んでる住民の人たちの自治を認めると言ってるわけですよ。別にどこからどこまでがスコットランド人でどこからどこまでアイルランド人か分からないんです。スコットランドにいる人たちが自分たちの住んでるところをスコットランドって言って独立する。それと同じことですね。

発言者4さんが今いいことおっしゃってますけど、静岡県にいる人はどこかからここに来られたのですね、静岡県民として対等であると、それがその多様であることが静岡県の財産だと、多様であることを大事にするために一人一人の個性、ルーツを大切にするというので、今日はですね最後、先ほどのあの発言者2さんもそうでしたけれども、面白かったですね。勉強になりました。ありがとうございました

【傍聴者1】こんばんは。中区から来ました傍聴者1と申します。

知事にひとつ提案をしたいと思います。リニア新幹線の件です。今静岡県が工事を止めてるもんですからこれがあのリニア新幹線が動いてませんけども、私は知事にその考

えを訂正していただきたいと考えます。

理由は三つあります。国家プロジェクトがこの静岡県のために滞ってるわけですが、リニア新幹線を早く動かすことには三つのメリットがあります。一つは東京、名古屋、大阪が1時間でつながるそうですけれども、そうするとものすごく経済が発展すると思います。二つ目は災害があった時の東海道ルートが駄目になった時にそっちのリニア新幹線ルートで人流が動くことは非常に大事だと考えます。その二つの理由からですね、私は早く新幹線を動かしたほうがよいと思います。

これに知事が待ったをかけている理由に水問題とか、環境問題があるというふうに聞いております。

ただ私は日本の会社っていうか技術とか、いろんな企業力っていうのを信じてるものだから、JRを中心とする企業グループが一生懸命やられていることをむしろ信じたいと思っています。もしもその中で瑕疵があるようだったらJRが責任をもってやるということでどうかというふうに思います。

三つ目としては、これを続けるリニア新幹線を早く開通することと引き換えにですね、知事がJRにこの工事を認めるけれども、新幹線を、ひかりとかのぞみを静岡に止めてくださいと取引を行うこともこれは静岡県民にとっての利益になると思います。以上から私は知事にリニア新幹線を早く進めるように提案する次第です。

【川勝知事】三つメリットがあると。大きな経済圏ができる、また災害時に逃げ道の一つとなる。さらに三つ目は、もしできますと今の一番早いのはリニアの方に移りますから時速500キロですからね、従ってひかりとこだまの本数が増えるので静岡県にとっても良いわけですね。

それはもう十分に分かっておりまして、したがって、そのリニア中央新幹線の建設促進期成同盟会に入れてくださいと言って今回答を待ってるところです。ですからお話はよく分かっております。

ただ、南アルプスは国立公園でもあるし、ユネスコエコパークでもありますし、そこを水源として生活している人達が62万人もいらっしゃいます。そしてトンネルを掘ると水が出ますけれども、その水を戻すと言うけれどもトンネルを掘ったときの出る水は濁水です。場合によっては、ヒ素とか重金属が入っている場合があります。それをどういうふうに処理するかはまだはっきりわかってません。

盛り土っていうか発生土っていうのはですね、熱海の土石流は5.5万立米でした。ところが静岡県のあそこのトンネルから出る量は370万立米です。その67倍ぐらいですね。それどこにどうするんですかって言ったら、多分行かれたことがあると思いますけれども、燕沢ですね、あの狭いところに300m、60m、70mで積みますと。駄目になったらどうするんですか、とこの辺りのことが解決されれば全く問題ないんですよ。今そのために国と協力をして有識者会議をやったりしておりますから。

今お父さんのおっしゃったことは十分に承知した上でですね、私達だけが待ったをかけてるじゃなくて、あちらこちらで落盤事故が起こって人が亡くなられたり、それから

土地の場所が上手くいなくて、例えばこんなこと言うと正確じゃないかもしれませんがけれども、神奈川県は、あそこは車両基地を作らなきゃいけないんですけども今始めたとしても2031年にならないとできません。ですからいくつものところで様々な支障が出てきております。

静岡県は静岡県の安全を守るために、しかしながらそのメリットはちゃんとわかったうえで建設促進期成同盟会に入れていただいて、それぞれの情報を共有しながら、国策ですから公共の利益に資するように、またその技術は日本独自の技術がたくさんありますから、まあこれを無駄にならないようにやるということで、決して何か国策に対して待ったをかけてるとかいうよりも、やるべき手続きをしっかりと踏んでる最中だと、そういうのも理解いただければと思います。

ここでいろんな問題はあると思いますけれども御理解いただきたいということで、ありがとうございます。

【傍聴者2】中区に住んでいます静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科4年の傍聴者2と申します。

私は今、浜松市北区引佐町にあります久留女木の棚田の耕作放棄地を使ってお米作りに行っています。静岡文化芸術大学引佐耕作隊という有志学生団体を結成しまして、10人程度で、使われなくなってしまった棚田を再生して、環境保全とか景観の保全と文化の継承ですとか、そういったところの地域の方のお手伝いをするようなこと、佐久間町の方でも同じように耕作放棄地遊休農地が増えていますのでそうしたところを活用して蕎麦作りを行ったり、地域の方と協働しながら住民主体で地域づくり活動に取り組んでいます。

ただ一つ困ったこととしては、ほぼ毎週末向こうに通っているのですが、その交通費とか、例えば天竜区の方ですが佐久間町の中心部に行く公共交通機関は今バスがなくなっていますので、通うのがむずかしかったり、電車で行くのならば豊橋駅を経由して飯田線で向かわなきゃいけないかったり、かなり時間がかかってしまったり、またそうした公共交通機関がないところはレンタカーで通ってますので、かなりの交通費がかかっています。

住民の方からはいつもお手伝いしてくれてありがとねとか、草刈りの要請があれば草刈りに行ったりとか、そうした小さいことでもお手伝いしてくれてありがたいですとかそうした声を聞き、僕らも大変ですがこれは続けたいと思って自分も大学4年間続けてまいりました。なんとかそうした地域づくりに貢献し、地域づくりに携わっている学生のために何かしら県の方から補助ですとか、そういうところがあるとすごくありがたいなど日々思っていました。

本日はありがとうございました。

【川勝知事】文化芸術大学はいいですね。もうこれはずっと続いているでしょ。あなたの先輩方からずっと続けてこられてます。佐久間の方にまで広がっていると。

今学生さんがそういう地域に入られただけじゃなくて住民の方たちが公共の交通がですね、だんだん減便になって、あるいは廃止されるので深刻な問題です。

ですから今日はですね、これは県だけの問題では、県全域に例えば天竜区もそうでございます。けれども伊豆半島に賀茂地域っていう天城のさらに海に近いところに2市6町あるんですけども、その人にとっても全く同じなんですよ。全く同じようなことが起こって、まずはですね、なんて言っても浜松でしょ。大学の学長も来てるでしょ。そして市の部長さんも来てるでしょう。そしてこちらには有力な県会議員の方たちなんと皆さん5人も来てるでしょう。皆さん聞いてますからね。これでいい案が出ないわけがない。

それで考えて学生さんがやろうとしてる事に対して、どういうふうにすると支援できるかなってちょっと知恵を出し合って何とかその活動が途切れないようにしたいものだ。またそして収穫した喜びもね、私も収穫したお米いただいたりして、感動したこともございました。

ですから応援をしておりますけども、今即答できないのは申し訳ありませんけども、しっかりと関係者が聞いたということですね、あなたが学校に戻られて市にも県庁にも県知事にも県議会の議員の皆様方もみんなしっかり聞いてたよと。何をするか、どうもしないか、ちゃんと我々それで次の投票行動を決めようとかですね、回答にならなくて申し訳ないけれど、問題は共有しています。

【傍聴者2】 ありがとうございます。

【傍聴者3】 こんばんは。高岡の傍聴者3といいます。

私は2年前、信号待ちの時に、6年生の女の子の自転車にぶつけられて足の骨を折って4ヶ月入院して、なんとか働けるようになりました。

今日は意見を聞いていただけるとうれしいです。

高校生と中学生の自転車のマナーを見ますととても悪いです。

団体で5、6人とか10人ぐらいでマスクもやらないでしゃべりながら自転車に乗っています。一列にしてと言っても、なかなか言うことを聞きません。

こういう団体の自転車のマナーを徹底的に直して欲しいと思っています。県知事さんと県の教育委員会とか警察とかで指導是非お願いしたいと思います。

本来は親がやるべきことを県知事さんをお願いするのは恐縮ですが、今日の機会によりしくお願いいたします。ありがとうございました。

【川勝知事】 そうですね。子供さんはですね、だんだん大きくなって行って、色々なこの性格も今までと全く違う子になったり、お友達に影響されたりします。

子供はですね、みんなで育てるというのが前提だと、親だけが責任を持つのではない。もちろん親御さんの責任はありますけれども、親御さんだけでなく地域の子どもは地域で育てる、社会の子供は社会総がかりで育てるという、そういうようにしてですね、

行儀作法がなっていないような子供に対してきちっとしつけができるような、そういうコミュニティを作っていないと駄目ですね。教育委員会だけに頼ることもできないんじゃないかと。今この問題はですね。

教育の問題は社会全体、地域全体が抱えてる問題ですから、その今抱えてらっしゃる、身の回りにそういう人がいるということで困られてるって事ですけども、あなただけでは無いと思います。

ですから一緒にですね、どういうふうにするときちっといい子に育っていくか、県の方でも委員会を立ち上げまして各界の人たちに知恵を頂戴してやっていますけれども、まだ十分に成果が出てないのが残念に思っております。

【森谷局長】 続きまして、オンラインでご覧いただいている皆様からの御意見がありましたので、御紹介をさせていただきたいと思えます。

西区の視聴者1さんからですね、浜松市は北部へと拡大傾向だが、インフラの維持はコスト的に持続可能なのか懸念されると。市民の意見を取り入れ、拡大ではなく、集中と分散で田園都市浜松へと進めて欲しいと。魅力をそぐような都市計画まちづくりを市民は望まないのではないのでしょうかというような御意見を伺っています。

御意見としてお伺いをしておきます。